

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第721号（令和六年三月号）表紙

- ・春の季語：「彼岸」（仲春・行事）
- ・来月号（四月号）の兼題です。



<彼岸>

春分の日とその前後三日の七日間を彼岸と言います。三月十八日から二十四日までです。俳句で彼岸と言う場合は春の彼岸を指し、秋の彼岸はそのまま秋彼岸と言います。暑さ寒さも彼岸までと言われ、あたたかい芽吹きの中で、昼と夜の長さが同じの、気持ちのよい時候です。

彼岸は、迷いの世界である現世を此岸（しがん）と言うのにたいし、悟りの世界、来世を表すのが本来の意味ですが、今日では、先祖の墓に参り、御供養に家族で食事をする年中行事になっています。

（子季語）彼岸中日、彼岸太郎、入り彼岸、さき彼岸、初手彼岸、終ひ彼岸、彼岸ばらい、彼岸前、彼岸過、彼岸講、万灯日

季語「彼岸」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- ・毎年よ彼岸の入りに寒いのは／正岡子規
- ・浮葉見えてさざ波ひろき彼岸かな／渡辺水巴
- ・藁屋根のあをぞらかぶる彼岸かな／久保田万太郎
- ・山寺の扉に雲あそぶ彼岸かな／飯田蛇笏
- ・蝌蚪生まれ未だ目覚めざる彼岸かな／松本たかし
- ・兄弟の相睦みけり彼岸過／石田波郷
- ・お彼岸のきれいな顔の雀かな／勝又一透

☆前月の清記表に記載の中から選ばれた高得点句（5点以上）

- ・前月の清記表に記載された13名の91句のなかから互選で高得点を獲得した句です。
 - ・人は皆宇宙の過客去年今年／碧亥・・・7点
 - ・寒の水ふふみて遠く故山あり／碧亥・・・6点
 - ・二人して少し呆ける冬うらら／勝・・・・・・・・5点
 - ・歳旦や膳の賑あふ四世代／碧亥・・・・・・・・5点

*以下は4点句（惜しい！もう少しで5点）です。

- ・春隣羽織はかまの女子大生／恵吾
- ・重ねたる年の軽重龍の玉／碧亥
- ・渾身の身体投げうち除夜の鐘／勝
- ・薄氷や小石を一つ置いてみる／穂心

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀

緑汀さんは先月号に引き続いてキノコを撮影され解説されています。



*サルノコシカケ（猿の腰掛・中国名 こそんがん（漢字ではケモノ偏に胡、ケモノ偏に孫、最期は眼の三文字））（写真上三点）

- ・サルノコシカケは日本では4科40属300種類が知られているそうですが、発刊や利尿作用などの薬用（漢方）となるものや、装飾品、置物としても珍重されるものもあるが、有毒な種は知られていないそうです。食用の種としてはマイタケ（舞茸）があります。

*オオシロカラカサダケ（大白唐傘茸）（写真右下）

・遊歩道脇の草叢で見かけたそうです。公園、庭園、堤防、畑の脇の草地や芝生などによく生える帰化キノコとのこと。強毒キノコで食べるとおう嘔吐、下痢、悪寒、血便などの激しい胃腸症状を起こすそうです。

*マツカサキノコモドキ（松毬茸擬き）（写真左下）

・遊歩道と車道の分離帯の草叢で見かけた由。晩秋から初冬にかけて地中に埋もれた松ぼっくりから生えるとのこと。

②「緑汀さんの『散歩道の自然』」：後藤碧亥

緑汀さんが「散歩道の自然」で取り上げた植物、キノコを、別の視点でとらえた随想文を掲載。今月は緑汀さん先月取り上げられたキノコについて考察されています。

最期に次の句を詠われています。

「マツタケの味も昭和も遠くなり」 同感です！！

③「甲舟さん 月間「俳句界」で特選」：平林温州

同人の八木甲舟さんの次の句が俳句月刊誌「俳句界」二月号で特選に選ばれたことを紹介しました。

「取り込みし洗濯物に放屁虫」 選者：加古宗也

放屁虫（へひりむし）とはカメムシのことですが、甲舟さんは時々見かけた光景をそのまま詠んだだけとされています。

いずれにしても同人としてはわがことのように誇らしく思ったところ。

④「一句鑑賞」：河本要

「石段を鳩のおりくる冬日和」

要さんは同人の詠った掲句に感心し、忘れなくなったと述べられています。

掲句は神社の階段を下りてくる鳩を眺めている作者が「世の中は何と美しいのか。そして私の人生もまざまざのものだった」と感慨に浸っているのではないかと鑑賞されています。

キラキラした生活句ばかりではなく、掲句のような「迷走を脱し、悟りを開いた」句を作って迷いのない世界に入りたいものだと。

⑤以下の方々より近況報告他がありました。

・北草炎様 ・山下勝様 ・河本要様 ・後藤碧亥様

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の13名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先:
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）